

堀内 大介（埋蔵文化財センター 専門学芸員）

はじめに

黒瀬大屋遺跡は、富山市中心部から南へ約 5km の富山市南部、同黒瀬・黒崎地内に所在し、土川と熊野川に挟まれた扇状地上に立地する弥生時代後期～近世の集落遺跡である。

平成 29 年度の本調査では、8 世紀後半～10 世紀初め（Ⅰ期～Ⅲ期）の竪穴建物・掘立柱建物などが確認された。緑釉陶器、灰釉陶器、墨書土器、刻書土器などの遺物が出土しており、公的要素の強い集落の可能性が示唆されている（富山市教委 2018）。

ここでは、令和 3 年度に黒瀬大屋遺跡の試掘調査で出土した馬形について報告する。馬形が出土した場所は、平成 29 年度本調査区の北西約 200m を流れる旧流路跡 SD01 の川底付近である（写真 1、p1 参照）。

あわせて富山県内出土馬形の集成を行う。



写真 1 馬形出土状況近景

1 馬形の規格・年代（図 1）

出土した馬形は、ほぼ完形の馬形である。柱目材を用いている。口・耳・尾毛を表現する切込があるほか、腹の側面には台を取り付ける「一」状の切込がある。背部は欠損しており、鞍を表現する切込があったか不明である。手綱などの墨書きについては不明瞭で判別が難しい。全長 14.9 cm、最大幅 2.1 cm、最大厚 0.4 cm を測る。尾部の厚みはやや薄くなる。

馬形と共伴して、旧流路 SD01 からは 8 世紀後半～9 世紀前半の土師器、須恵器、加工木などが出土しており、馬形の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。この時期は平成 29 年度本調査のⅠ期（8 世紀後半～9 世紀前半）と同時期である。

2 富山県内における馬形の出土事例（図 3、表 1）

馬形は、県内 8 遺跡で事例報告がされている。1974（昭和 49）年、入善町じょうべのま遺跡での出土が県内で初めての事例である（入善町教委 1975）。その後、高岡市や射水市など特に呉東地域において、馬形もしくは馬形（鳥形）の可能性のあるものが報告されている。ほぼ全て事例が、斎串や人形などの祭祀木製品とともに溝から出土している。

（1）高岡市中保 B 遺跡 第 8 次調査 5 区 SX03（SD01 最下層）

SX03 は調査区内を蛇行しながら西から東へ横断する流路 SD01 最下層の遺物集積遺構である。ここから土師器、須恵器、木製品（木簡、人形、鳥形、舟形、琴柱形、刀子形、斎串など）などの 7 世紀中頃～9 世紀中頃の遺物が共伴して出土している。

2 は馬形の可能性がある遺物で、尾部が欠損する。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 15.8 cm 以上、最大幅 3.8 cm、最大厚 1.0 cm を測る。

（2）高岡市東木津遺跡 堀井地区凹地 SX06

SX06 は南東方向へ緩やかに落ち込む凹地（谷地形）である。ここから土師器、須恵器、木製品（木簡、人形、鳥形、舟形、琴柱形、刀子形、斎串など）などの 8 世紀後半～9 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

3 は中央部で 2 つに折れているが、完形の馬形である。口・耳・鞍を表現する切込はない。

全長 26.3 cm、最大幅 3.7 cm、最大厚 0.6 cmを測る。4 は尾部片である。全長 12.8 cm以上、最大幅 5.2 cm、最大厚 1.2 cmを測る。5 は頸部片で、口先部および胴部以下が欠損している。全長 8.1 cm以上、最大幅 2.6 cm、最大厚 0.5 cmを測る。

（３）高岡市下佐野遺跡 D 地区 SD002

南西から北東へ流れる溝で、数回にわたり改築が行われた。ここから墨書土器、墨画土器、人面墨書土器、木製品（人形、斎串、舟形、鳥形、点け木など）などの 8 世紀後半～10 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

6 は完形の馬形である。口・耳・鞍を表現する切込があるほか、腹の側面に台を取り付ける「一」状の切込がある。両面に墨書があり、手綱や鐙などが描かれている。全長 15.9 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 0.5 cmを測る。7 は頭部から胴部までの完形と考えられる。口・鞍を表現する切込がある。全長 22.9 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 0.3 cmを測る。8 は中央部で 2 つに折れているが、完形の馬形である。ただし、かなり簡略化されたものである。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 18.4 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 0.4 cmを測る。9 は尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 13.1 cm以上、最大幅 1.4 cm、最大厚 0.4 cmを測る。10 は胴部以下が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 7.0 cm以上、最大幅 1.1 cm、最大厚 0.2 cmを測る。11 は馬形の可能性のある木製品で、尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 8.2 cm以上、最大幅 1.7 cm、最大厚 0.4 cmを測る。

（４）高岡市出来田南遺跡 D 区大溝

南東から北西へ流れる大溝である。大溝から墨書土器、人面墨書土器、土師器、須恵器、木製品（荷札木簡、習書木簡、呪符木簡、斎串、舟形、火鑽臼など）の 8 世紀後半～9 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

12 は完形の馬形である。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 20.7 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 1.2 cmを測る。13 は馬形の可能性のある木製品で、口先部、胴部以下が欠損している。耳・鞍を表現する切込はない。全長 19.0 cm以上、最大幅 5.6 cm、最大厚 0.8 cmを測る。

（５）射水市（旧大島町）北高木遺跡 D 区 SD100

SD100 は、南西から北東へ流れ、蛇行しながら途中で北へ折れる旧河道である。旧河道から墨書土器、人面墨書土器、土師器、須恵器、木製品（出挙木簡、習書木簡、荷札木簡、斎串、人形、舟形、琴形、木皿、曲物、火鑽臼など）の 8 世紀後半～10 世紀初頭の遺物が共伴して出土している。

14 は口先部が欠損しているが、ほぼ完形の馬形である。鞍を表現する切込がある。片面に墨書があり、手綱などが描かれている。全長 20.0 cm、最大幅 2.2 cm、最大厚 0.5 cmを測る。15 は尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 13.8 cm以上、最大幅 1.8 cm、最大厚 0.3 cmを測る。16 は完形の馬形（太形）である。口を表現する切込がある。全長 10.8 cm、最大幅 2.1 cm、最大厚 0.4 cmを測る。17 は馬形（太形）で、尾部が欠損している。耳を表現する切込がある。全長 12.8 cm以上、最大幅 2.2 cm、最大厚 0.3 cmを測る。

（６）射水市（旧小杉町）赤田 I 遺跡 3 地区 SD01・8 地区 SD01

SD01 は、南西から北東へ流れる溝である。溝から墨書土器、土師器、須恵器、木製品（斎串、人形、舟形、鳥形、刀形、鋏、鋏、木皿、曲物、下駄、檜扇、火鑽臼など）の 8 世紀後半～10 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

18 は完形の馬形である。鞍を表現する切込がある。全長 23.4 cm、最大幅 3.3 cm、最大厚 0.4 cmを測る。19 は完形の馬形である。耳・鞍を表現する切込がある。全長 20.8 cm、最大幅 4.2 cm、最大厚 0.4 cmを測る。20 は馬形もしくは鳥形の可能性がある遺物で、尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 37.0 cm以上、最大幅 2.6 cm、最大厚 1.1 cmを測る。21 は完形の馬形である。鞍を表現する切込がある。全長 23.7 cm、最大幅 4.2 cm、

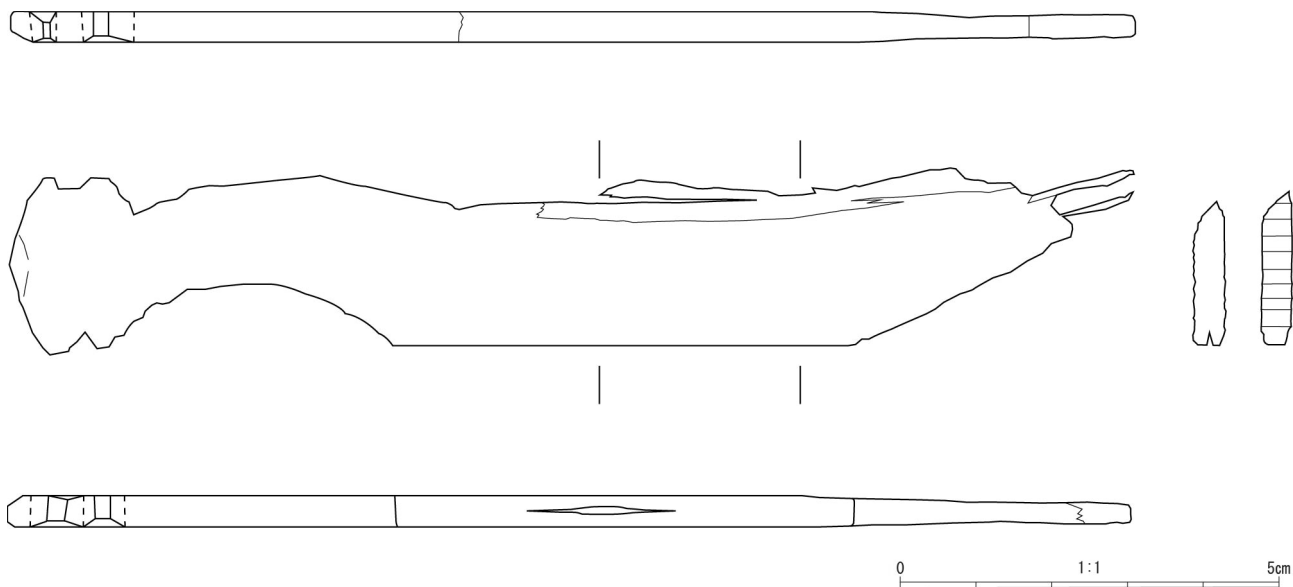


図1 馬形実測図

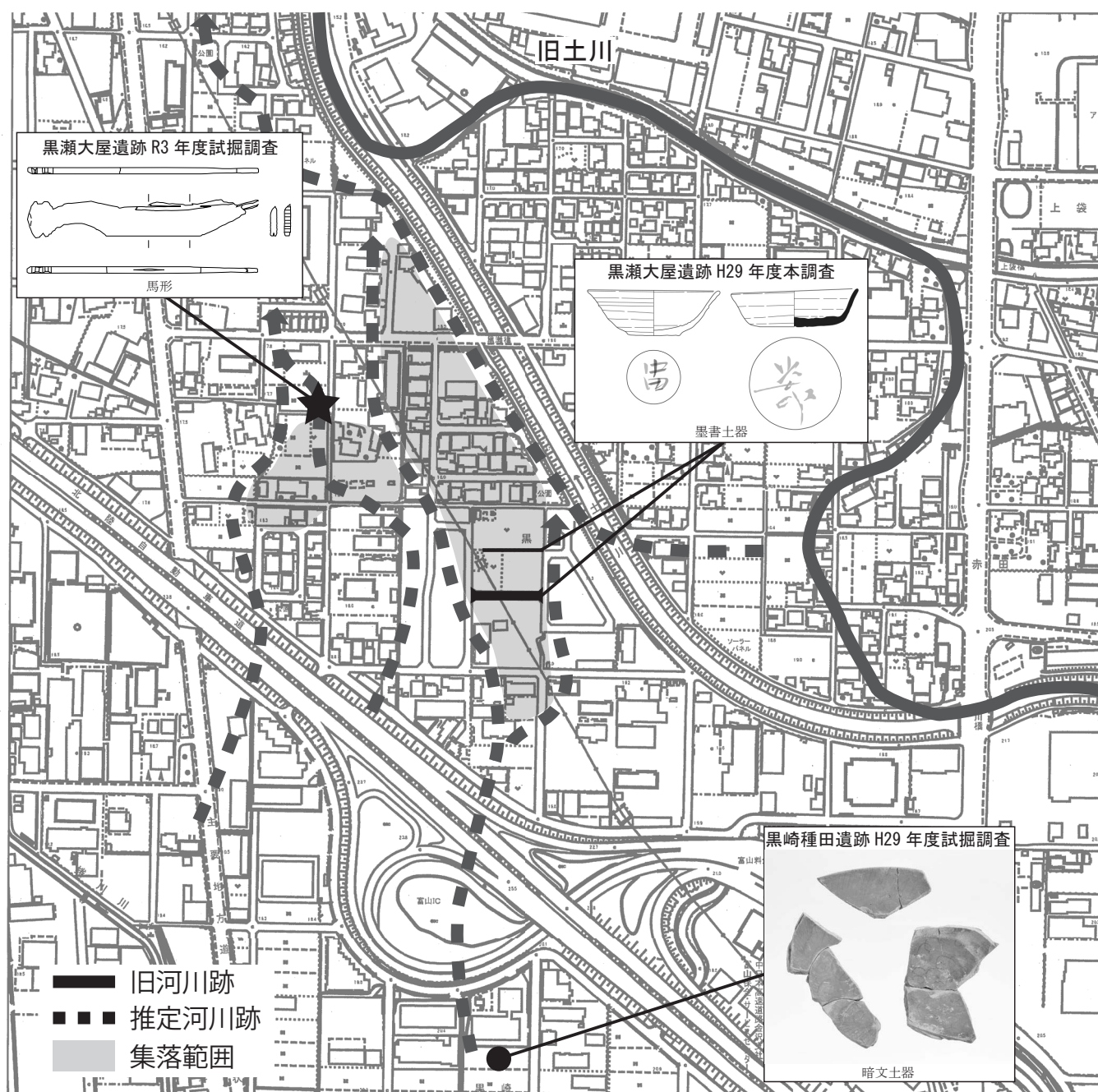
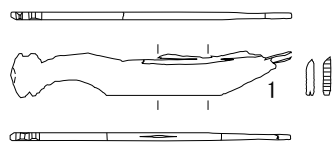
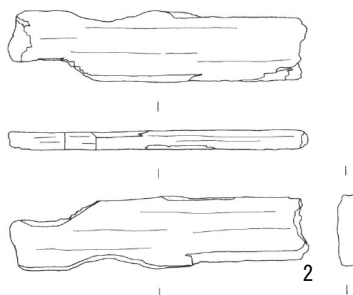


図2 黒瀬大屋遺跡・黒崎種田遺跡周辺図 (1 : 5 0 0 0)

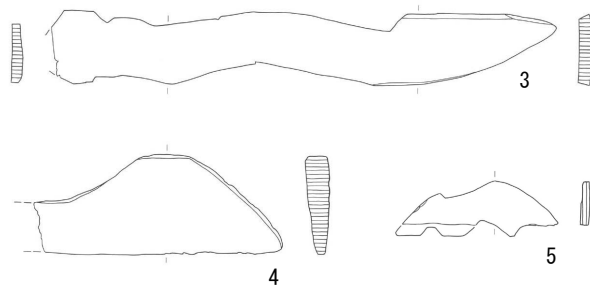
黒瀬大屋遺跡



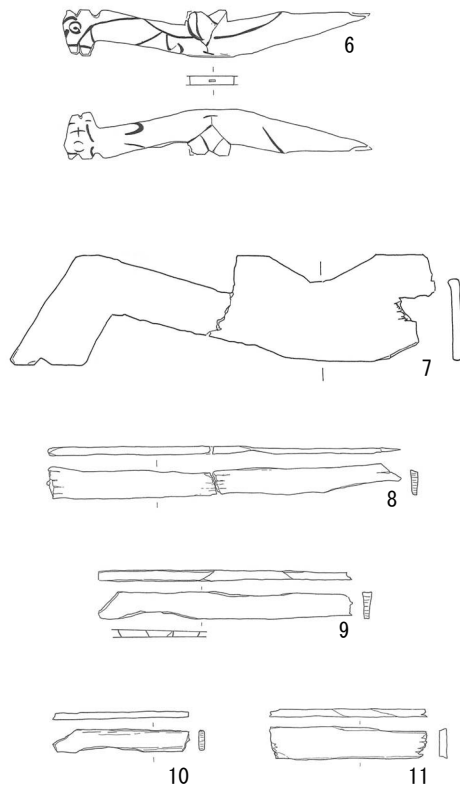
中保B遺跡



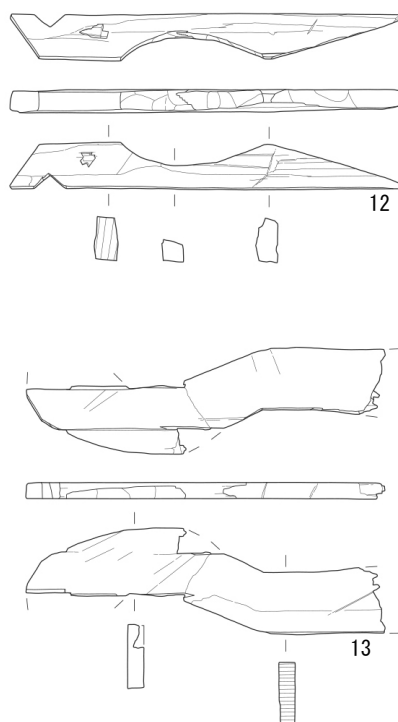
東木津遺跡



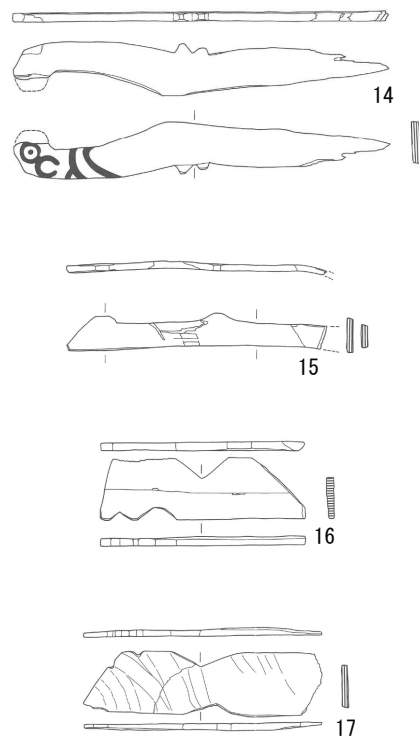
下佐野遺跡



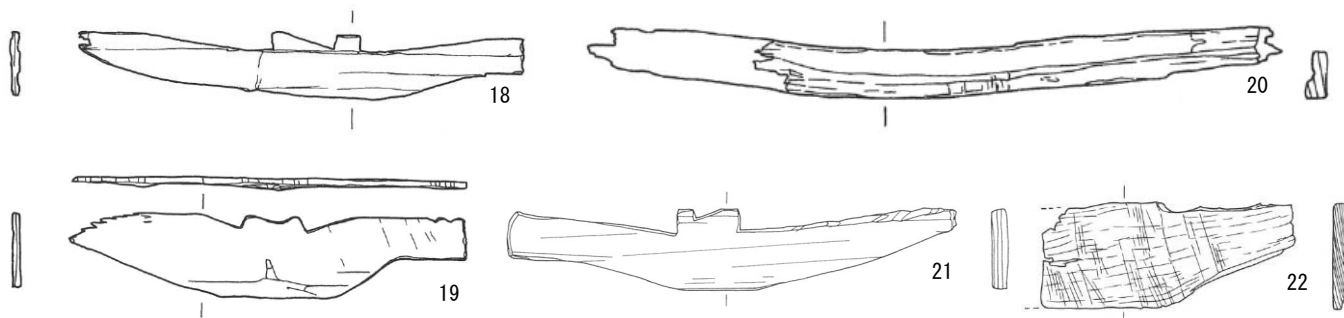
出来田南遺跡



北高木遺跡



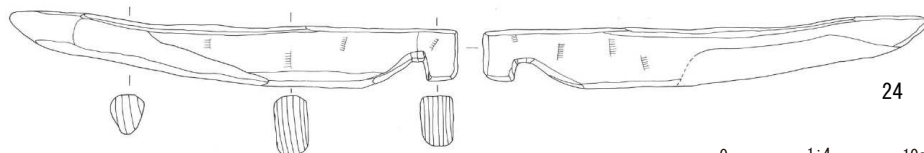
赤田 I 遺跡



じょうべのま遺跡



弓庄城跡



0 1:4 10cm

図3 富山県出土の馬形集成 (1/4)

番号	市町村	遺跡名 (調査年度)	遺構	時期	種類	法量 (mm)			墨書	口	耳	鞍	備考	掲載番号
						高・長	幅	厚						
1	富山市	黒瀬大屋遺跡 (2021)	試掘4T 旧流路SD01	8世紀後半 ～9世紀前半	馬形	149	21	4		有	有		完形 腹に差込用切込あり	本報告
2	高岡市	中保B遺跡 (1997)	第8次調査 5区 SX03 (SD01最下層)	8世紀後半 ～9世紀前半	馬形?	(158)	38	10						図面235 4031
3		東木津遺跡 (1999)	堀井地区 凹地SX06	8世紀後半 ～10世紀前半	馬形	263	37	6					完形	図面16 7021
4					馬形	(128)	52	12						図面16 7022
5					馬形	(81)	26	5						図面16 7023
6		下佐野遺跡 (2009)	D地区 SD002	8世紀後半 ～10世紀前半	馬形	159	24	5	両面	有	有	有	完形 腹に差込用切込あり	第2-63図 1088
7					馬形	229	24	3		有		有	頭部～鞍部片 (完形)	第2-63図 1089
8					馬形	184	24	4					完形	第2-63図 1090
9					馬形	(131)	14	4						第2-63図 1091
10					馬形	(70)	11	2						第2-63図 1092
11					馬形?	(82)	17	4						第2-61図 1056
12		出来田南遺跡 (2011)	D区 大溝	8世紀後半 ～9世紀前半	馬形	207	24	12					完形	第82図 660
13					馬形?	(190)	56	8						第82図 661
14	射水市	北高木遺跡 (1994)	D区 SD100	8世紀後半 ～10世紀初頭	馬形	200	22	5	片面			有	ほぼ完形 (口先部一部欠損)	第129図 1623
15					馬形	(138)	18	3						第129図 1620
16					馬形	108	21	4		有			完形	第129図 1621
17					馬形	(128)	22	3						第129図 1622
18		赤田I遺跡 (2002)	3地区 SD01	8世紀後半 ～10世紀前半	馬形	234	33	4				有	完形	第28図 8
19					馬形	208	42	4			有	有	完形	第28図 9
20					馬形? or 鳥形?	(370)	26	11						第28図 10
21		(2003)	8地区 SD01		馬形	237	42	9				有	完形	第39図 709
22		(2005)	包含層		馬形?	(131)	55	7						第10図 63
23	入善町	じょうべのま遺跡 (1974)	第5次調査 A地区 SA037	8世紀末 ～10世紀初頭	馬形	169	29	6	片面			有	完形	第8図 5
24	上市町	弓庄城跡 (1983)	第4次調査 E1地区 SE007	15世紀	馬形 or 鳥形	235	32	18					完形	図版7 1

表1 富山県における馬形出土一覧

最大厚 0.9 cm を測る。22 は馬形（太形）で、頭部が欠損している。鞍を表現する切込はない。全長 13.1 cm 以上、最大幅 5.5 cm、最大厚 0.7 cm を測る。

（7）入善町じょうべのま遺跡 第 5 次調査 A 地区 SA037

柵列 SA037 から出土とされる。周辺からは 8 世紀末～10 世紀初頭の遺物が出土している。23 は完形の馬形である。耳・鞍を表現する切込がある。片面に墨書があり、目やたてがみが描かれている。全長 16.9 cm、最大幅 2.9 cm、最大厚 0.6 cm を測る。

（8）上市町弓庄城跡 第 4 次調査 E1 地区 SE007

SE007 は本丸南側にある井戸である。井戸から漆を施した曲物底板が共伴している。周辺からは 15～16 世紀の遺物が出土しているが、古代の遺物はない。

24 は完形の馬形ないしは鳥形である。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 23.5 cm、最大幅 3.2 cm、最大厚 1.8 cm を測る。

3 まとめ

富山市内の古代祭祀遺物として、豊田大塚・中吉原遺跡（古代新川郡）や花ノ木 C 遺跡（古代射水郡）から人面墨書土器、人形、斎串などの出土はあるが、馬形の出土はない。今回の報告が市内で初めての馬形出土となる。

県内出土事例と比較すると、今回報告した馬形は、下佐野遺跡、北高木遺跡、じょうべのま遺跡で出土した墨書のある馬形と同タイプのもと考えられ、欠損部には鞍を表現する切込はあったものと推測される。また他遺跡同様に墨書で馬の細部を描いていた可能性もある。

図 2 に示すように富山 I C を挟んで隣接する黒瀬大屋遺跡と黒崎種田遺跡から墨書土器、暗文土器、緑釉陶器、灰釉陶器などが直径 600m 以内の非常に狭い範囲からまとまって確認されている。これらの遺物は、主に郡衙や郷衙などの役所施設から出土することが多いものである。馬形が出土したことは、この場所に郡や郷の役所施設があった可能性がより高まったと言え、馬形が役所施設の律令祭祀における「祓い」で使用されたと考えられる。

木本秀樹氏は、「熊野川が婦負郡と新川郡の郡界であった可能性を指摘することができる」（木本 2017）とされており、熊野川右岸に立地する黒瀬大屋遺跡や黒崎種田遺跡は古代新川郡に属していたと考えられる。

藤田富士夫氏は、古代の遺跡分布や古代道路の比定を基に新川郡内の郷域を擬定されたが、「富山市南部地域にまったく触れることなく論述した」とされる（藤田 2004b）。近年の発掘調査で、官衙関連施設の可能性が示唆された黒瀬大屋遺跡や総曲輪遺跡（鹿島 2011）などは、藤田氏の擬定から外れていた地域に所在しており、改めて郷域の検討する必要があるだろう。

最後に、本稿を作成するにあたり、堀沢所長にご助言を頂いた。記して謝意を表す。

参考文献

- 射水市教育委員会 2006 『赤田 I 遺跡発掘調査概要(2)』
- 大島町教育委員会 1995 『北高木遺跡発掘調査報告書』
- 鹿島昌也 2011 「富山城西ノ丸跡から奈良時代の墨書土器」『富山市の遺跡物語』No.12 富山市埋蔵文化財センター
- 上市町教育委員会 1984 『弓庄城跡第 4 次緊急発掘調査概要』
- 木本秀樹 2017 「古代後期から中世前期にみえる婦負郡社会の一齣」『富山市の遺跡物語』No.18 富山市埋蔵文化財センター
- 小杉町教育委員会 2003 『赤田 I 遺跡発掘調査報告』
- 小杉町教育委員会 2005 『赤田 I 遺跡発掘調査概要(1)』
- 高岡市教育委員会 2000 『市内遺跡調査概報 X』
- 高岡市教育委員会 2002 『中保 B 遺跡調査報告』
- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2015 『出来田南遺跡発掘調査報告』
- 富山県埋蔵文化財センター 2011 『下佐野遺跡発掘調査報告』
- 入善町教育委員会 1975 『じょうべのま遺跡発掘調査概要(3)』
- 藤田富士夫 2002 「古代婦負郡の「郷」擬定と栃谷南遺跡」『栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 富山市教育委員会
- 藤田富士夫 2004a 「大伴家持の歌に見る渡河地点について」『富山市の遺跡物語』No.5 富山市埋蔵文化財センター
- 藤田富士夫 2004b 「古代越中国新川郡の「道」と「郷」に関する若干の考察」『人文社会学研究所年報』No.2 敬和学園大学